

デジタル田園都市国家構想交付金を活用した 取組の状況について

高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト事業
2024年度分

令和7年11月27日
小国町教育委員会
高校魅力化推進室

都市部等で中学生親子に向けた合同説明会「地域みらい留学フェスタ」



「地域みらい留学」への参画（1,072,500円）、対面での留学生募集説明会旅費（36,360円）、
ウェブサイト運営委託料（55,440円）

（一財）地域・教育魅力化プラットフォームが実施する「地域みらい留学」制度を活用し、令和7年度から山形県立小国高校へ入学を希望する県外中学生に向けた説明会を実施した。

		（一財）地域・教育魅力化 プラットフォーム主催説明会	小国高校個別相談会 （オンライン説明会）	東京などの対面説明会	オープンスクール （現地訪問含む）	合格
令和4年度実績	参加人数	259人	214人		13人	5人
	実施回数	10回	31回		オープンスクール1回 現地訪問は随時	
令和5年度実績	参加人数	153人	88人	14人	19人	6人
	実施回数	11回	36回	1回	オープンスクール1回 現地訪問は随時	
令和6年度実績	参加人数	75人	45人	60人	21人	6人
	実施回数	5回（9回）	37回	2回	オープンスクール2回 県主催バスツアー1回 現地訪問は随時	
令和7年度現在 までの実績 （参考値）	参加人数	91人	21人	66人	20人	
	実施回数	6回	24回	2回	オープンスクール1回 県主催バスツアー1回 現地訪問は随時	

小国高校魅力化コーディネーター配置（1,813,944円）ほか

魅力化コーディネーターとは、山形県立小国高校における教育や教育環境をより魅力あるものとするため、学校内（生徒、教員等）と、学校外（地域住民、地域内外の教育資源、行政等）をつなぐ人材を1名配置した。



白い森未来探究学講師謝礼（102,600円）、講師費用弁償（30,660円）、バス代（9,960円）

山形県立小国高校は、地域学習とキャリア教育を複合させた「白い森未来探究学」カリキュラムを構築しており、1～3年生まで、地域に密着した実践的な教育を行っている。

知見や経験を活かして、進路実現へ発展させていく新しい教育を行ううえで必要な、講師への謝礼や移動費を支援した。



白い森未来探究学
(地域に浸る講座)



白い森未来探究学
(トークフォークダンス)



白い森未来探究学
(ハタラトーク)

(株)リクルート社「スタディサプリ」使用料（455,840円）、ポケットwi-fi使用料（242,000円）

山形県立小国高校は、本町の保小中高一貫教育における最高学府として、「国際理解」、「情報」においても特色ある教育を実践している。県が配布している1人1台のchromebookで、(株)リクルートが運営管理しているAI教材である「スタディサプリ」を活用できるよう、高校生74人分の使用料を支援した。

また、オンラインでの募集活動や、保護者との個別面談等に使用するポケットwi-fi（2台）を使用した。



スタディサプリも導入！
個別最適の学び！



留学生アシスタントの配置（1,996,206円）、寮の食事提供に係る人件費（5,616,000円）
ハウスマスターへの謝礼（2,835,000円）、ハウスマスター保険料（14,320円）

地域みらい留学365生及び白い森留学生が生活する留学生寮において、日中は「留学生アシスタント」、夜間は「ハウスマスター」を配置し、体調の急変時などの対応や生活指導、休日の地域活動などをサポートしている。

令和6年度は、アシスタント2名、ハウスマスターは5名程度、食事提供は2名で活動していた。



小国高校学習支援事業交付金（343,449円）

小国高校生の学習支援として、英検対策講座や漢検対策講座のほか、試験前対策学習会、スタディサプリ活用学習会などを企画・実施した。

毎年2～3月、教員の入選業務により家庭学習日等が多く、こうした際の学習習慣の維持も目的としている。



高校魅力化評価の実施、分析（220,000円）

別紙、資料のとおり、全国の高校約300校が同じ評価システムで、生徒の自己評価、カリキュラム等の評価を行っている。小国高校は、主体性、探究性が全国平均よりも大幅に高い。